

2022年度【データサイエンス教育プログラム】自己点検・評価報告書

2022（令和4）年度 第7回 自己点検・評価委員会（2023年3月3日）において、本学の【データサイエンス教育プログラム】について、次のとおり自己点検・評価をおこなった。

<自己点検・評価委員会委員（出席者）>

委員長：学長

委員：副学長、経済学部長、経営学部長、メディアビジネス学部長、事務局長、総務部長

1. プログラムの履修・修得状況

本プログラムを構成する「AIリテラシー入門」の開講初年度の履修生は、予定（120名）を上回る131名となった。また、全学部全学科からの履修者を得てのスタートとなった。新入生向け履修ガイダンス及び在校生向けに学期毎に行う履修ガイダンスなどでの周知が功を奏したと判断できる。

修得状況については、131名の履修者に対して単位修得者が94名となり、目標の8割に届いていない。教授方法、授業の難易度についての検討が必要であると考えられる。

2. 学修成果

学修成果について、全授業終了後の学内定期試験の結果を分析することの他、受講後の理解度アンケート（演習問題を含む）の回答、全学的に行われている授業アンケートの回答などのデータを分析することで、各講ならびに授業全体としての受講生の理解度について把握している。

また、この授業を受けたことによって興味をもつに至った授業内容を把握するとともに、上位学年になった時にさらに深く学んでみたい内容の把握に努めている。

収集したデータの分析と今後の授業内容の検討に関しては、授業担当者だけでなくデータサイエンス教育プログラム推進ワーキンググループでも行っており、自己点検・評価委員会での評価と合わせて、改善につなげていく必要がある。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

受講前アンケートの結果から各講の授業内容に関する受講生の前知識を把握し、授業内容と難易度の調整に活用している。受講後の理解度アンケートの結果からは、各講の授業内容において受講生が得意な項目、不得意な項目を把握し、特に不得意な項目に関しては、わかりやすい補助教材を準備するなど授業の理解度の向上に努めている。

また、全学的に行われている授業アンケートの結果からは、学生の授業への参加度合いによって分類されたデータを分析することで、授業に積極的に参加していないと思われる学生の割合を把握するとともにそのような学生に対しても魅力的な授業にできるよう、内容の検討につなげていく必要がある。

4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

最終講に実施した受講後の理解度アンケート（演習問題を含む）において友人・後輩に本授業の履修を推奨するかどうかを問うことで、その度合いを把握している。初年度は76.3%が推奨する

という肯定的な回答であった。

また、教育・学習支援センターに配置している情報スチューデントアシスタント (SA) のもとに、学習相談に訪れた学生に対して本授業の履修を推奨する取り組みを実施している。今後も本授業の推奨度を高めるためには、より魅力的な授業を行うことが前提となるため、SA を通じた授業に対する学生の生の声やニーズも捉えながら本プログラムのブラッシュアップを図っていく必要がある。

5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムを構成する「AI リテラシー入門」の履修者数や履修率の向上に向けて、まず学期毎に実施している履修ガイダンスにおいて本授業のことを特別に取り上げ、プログラム設置、科目設置の目的である「デジタル時代に必要な数理・データサイエンス・AI の基礎などの必要な力をすべての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する」ことを説明し、履修を促す取り組みを行っている。初年度は目標履修者数を上回る履修登録があった。

さらに、2年目に向けて、本授業の授業内容や授業風景等の取材記事を本学のホームページ News & Topics に掲載し、本授業の認知度を高めることで履修者数の増加を促した。

また、今年度からは、令和 8 (2026)年の履修必修化に向けて検討を始める。

6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

プログラムを修了した卒業生の進路は、卒業時にキャリアセンターに提出する最終進路報告書によって確認することができる。

また、卒業生の就職先企業（卒業 3 年目の卒業生を対象）に対して、キャリアセンターと教育・学習支援センターが毎年協同で行っている「企業アンケート」の活用やキャリアセンターに来訪のあった企業の採用担当者にヒアリングをするなどして、本プログラムと本プログラムの受講生の活躍状況、評価を確認する予定である。

7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本プログラムの受講生の就職先となっている企業や本学の正課科目である「インターンシップ」に協力して頂いている企業・団体に対して本プログラムに関するアンケート調査を行い、産業界におけるニーズの把握に努めるとともに本プログラムに対する企業からの要望なども併せて意見聴取することで本プログラムの改善・進化に役立てる予定である。

8. 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

大学で行われている基礎研究を紹介するだけでなく、映像資料や画像資料を用いて企業の適用事例を紹介することでデータサイエンスや AI が受講生の身近なものとして認識できるようにするとともに、データサイエンスや AI のことを学ぶことが将来においてどのように役立つかを理解できるよう工夫している。

また、データサイエンスや AI の手法に触れて楽しむ目的で授業内に演習時間を設けて、実際にプログラムを動かしてみることで能動的に学ぶ仕組みも取り入れている。

9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

本授業の担当者間による打ち合わせを頻繁に行うことで、受講生の傾向を把握し、授業内容や授

業難易度を適切に設定しようとしている。「より分かりやすく」の観点から、企業の実データをもとにした分析・ワークや直近の話題が反映されたデータなどを取り入れ学生が興味を持つ内容も盛り込むことも検討している。

また、今後、各学部からの意見、要望なども取り入れ、本学の特色を活かした授業内容とすることも検討していきたい。

各種アンケートの結果を、データサイエンス教育プログラム推進ワーキンググループにて分析し、学生にとってより分かりやすく、興味の深まる授業となるよう内容や実施方法を改善・進化させていくことが重要である。

以上